

【目的】鏡川ダムへの流入量を、気候変動シミュレーション（CMIP5）と水エネルギー収支分布型モデル（WEB-DHM）を用いてどの程度上昇するのか、8月・9月、鏡川上流・下流別に調査比較を行った。

【結果】CMIP5 から抜き出したデータの現在と過去の降水量の比率は8月に約 1.12 倍となった。また、近未来のデータの7年間移動標準偏差の平均は、2005年に0.22であったのが、2055年には8月に0.55となった。これは現在と比較して降水量が1.12倍になるだけではなく、渇水や豪雨といった極端現象が頻繁に起こるという予測である。WEB-DHMの洪水予測には2014年8月3日の台風を基にシミュレーションを行った。結果、1.12倍の時は現実より1時間早くダムの貯水量が8割を超え、1.5倍の時には4時間も早く8割を超えた。

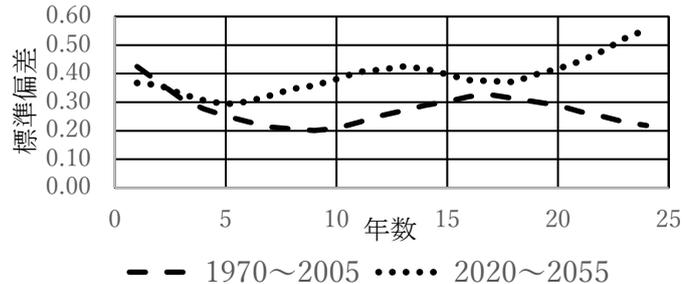


図1：8月の鏡川下流の未来と過去の7年毎の標準偏差の移動平均